

2021. 9. 13

発行: 桜本保育園

044(288)2545

# えんだより 9がつごう



新型コロナウイルスの感染拡大は 桜本保育園にも やってきました。家庭内感染が つづき 八月初めに三日間 休園しました。みなさん うちの子は 濃厚接触者なのかな 感染してないかなと 不安だったことだと思ひます。「いつ 開園になるのだろう?」「いつから 出勤できるのか」と 職場の人は 聞いてくるけど 保育園からは はっきりした連絡は ないし・・・ 働く者にとっては 子どもの健康以外にも 考えることは いっぱいですよね。たくさん 心配と ご迷惑をおかけしました。そんな中 また あたたかい言葉を たくさん いただき ほんとうに ありがとうございます。

また 感染拡大防止のために 登園自粛に 協力していただき ありがとうございます。保育園に 預けるしかない おうちのひとにとっては 集団に 預けることの 不安が 減ります。気がつかない あいだにおたがいを たすけあっている 行動だと 思ひませんか? おうちで 保育できるときは おうちで、保育園が 必要な時は 保育園で、みんなで 助け合いながら こどもたちが 安心して 暮らせるように したいです。

やっと 涼しくなってきました。からだを動かすのに 気持ちのいい季節が やってきます。戸外活動や サークレット リズムなど 思ひっきりできる時です。今月の からだづくりのテーマは「棒」「棒」をどんなふうにして 子どもたちの遊びに 取り入れていくのでしょうか? 楽しみです。(P)

## 9月のよひ

15日 園児健診 (0・1・2・3歳児)

20日・23日 おやすみ

## News・おしらせ・알림・balita

☆新しい목사님이 いらっしゃいました。

鄭 富 京 (ちゃんぶ きょん) 목사님です。



よろしく  
おねがい  
いたします。

★退園しました。

헛님 1名 牟子화 1名 引っ越しの為 退園しました)

★退職しました

2名 退職しました。(8・31退職)

げんきでね。

おせわになりました。



☆さくらっこ職員が サポートに 来てくれています。

Noticias・通知・Tin túc



こんげつ せいく  
今月の聖句

きぼう な そうぞう  
「希望という名の創造のわざ」

鄭 富京 (ちよん・ぶきよん)

はじめに、神は天地を創造された。(創世記1章1節)・・・神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。(31節)

はじめまして、鄭 富京と申します。

韓国の大邱で生まれ育ち留学生として京都で学生生活を送りました。京都と兵庫、大阪、再び京都に戻り福知山で過ごし今年の7月、連れ合いの在日大韓基督教会川崎教会牧師着任に伴って福知山から川崎に来ました。8月から桜本保育園でチャプレンとして礼拝を担当することになりました。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

わたしは、日本基督教団の牧師であり、今年の3月まで中学校・高等学校で聖書科などの非常勤講師を務めていました。また、7年前は保育園の副園長を兼任したこともあります。幼児保育に関心を抱いたのは、子育て中に、日頃個性豊かな高校生に関わりながら、生徒一人一人はどのように育てられ、現在に至っているのだろうか？という思いからでした。

初めて保育の現場に関わったのは、大阪の教会に赴任した時のことです。教会は平日、礼拝堂と広い庭を幼児から小学生までを預かる「子どもの家」に貸していました。また教会の隣には鉄工所がありました。

教会の3階にあった「牧師室」は、気持ちの良い涼しい風が通る、夕日も月も星もきれいに見える、一日の始めから終わりまで「神が造られた万物」、自然の移り変わりを感ずることのできる部屋でした。そこにいと二つの異なった音が響いてきました。左側からは鉄工所の金属音と働く人の声、右側からは「子どもの家」の子どもたちのにぎやかな声。耳を澄ますと働く大人たちの姿と、元気に遊ぶ子どもたちの生き生きした姿が浮び、「神にかたどって創造された」人の営みに想像がふくらみました。

人間は「神によって創られ」、それぞれがそれぞれの与えられた場において、いのちを生き、中には悲しみ悩み苦しきもあるかもしれませんが神のみ守りの中にあることを感謝し「見よ、それは極めて良かった」とされた神の言葉と思いに「希望」を抱き今日も生かされ生きるものとして、一人一人が大切な存在として、共に歩みたいと願います。

\*マスクについて\*



マスクをすると脳に行く酸素の量が減ってしまいます。子どもたちには考えるための酸素と脳を成長させる酸素が必要といわれています。保育園では子どもたちのたいせつなそだちのためマスクをつけていません。保育園での感染拡大を防ぐために体調が悪い時(家族も含みます)ははやめにやすみの協力をねがいます。